

## 第2回山ノ内浄水場跡地活用方針検討委員会議事摘録

出席者 土井座長 荒川委員 北尾委員 木村委員 竹山委員 山下委員

**土井座長** 定刻となりましたので、第2回山ノ内浄水場跡地活用方針検討委員会を開催させていただきます。本日は議題が2つありますが、議事に先立ちまして、前回御欠席だった御二方に、いきなりで申し訳ございませんが、自己紹介と山ノ内浄水場について感じておられる事をお話しいただきたいと思います。まずは北尾委員から簡単な自己紹介とご意見等お話しいただきたいと思います。

**北尾委員** 京都経済同友会の代表幹事をしております北尾と申します。仕事は、日東薬品工業という会社で一般薬を作っております。この度、山ノ内浄水場跡地活用と言うことで、小さいころからその周辺は良く行っておりましたので、大変懐かしい思いがあって良い跡地活用になれば良いなと思って喜んで参加をさせていただきました。第1回目、出ておりませんが、ここに意見等をまとめて頂いております。

跡地利用と合わせて京都市の財政を立て直すという面で一番ネックになっております地下鉄の増客も重要なこととお聞きしておりますので、そういう観点から意見を述べさせていただきます。やはり地下鉄に沢山乗って頂いてこれから利用者を増やして行く為には、何回も通ってもらう、固定客になる可能性が非常に高い病院を誘致する事と、大学が京都には沢山あります、医学部のない大学というのは本当に総合大学と言えるのかどうかというのをずっと思っております。そういった面では慶応大学というのは医学部があつてまさに総合大学だと思うのですが、京都の同志社大学・立命館大学を見ても医学部がないというのはどこか見劣りがすると思っております。特に同志社大学というのは、キリスト精神に則つて出来た大学でもありますし、新島襄の創立経過を見てみますと最初に同志社の医学校を作つたり、看護の学校を作つたりしてありまして、同志社にとつても医学部を持つというのは、創立以来の精神にもよるところが大きいのではないかと思っております。

最近では医師不足が言われています。安全・安心という観点から医師を増やす必要があり、医学部の新設・増設を認める風潮が出てきております。ここしばらく医学部の開設がどの大学にも認められなかった訳ですが、ここにきて認可する動きも出てきたように思います。民間の活力と大学を利用するという面で、同志社大学や立命館大学に医学部と付属病院を設置してもらいたい。医学部ができると研究が大いに進みます。京都には分析機器メーカーも非常に沢山ありますので、そういった方面の研究も一気に進むのではないかと思います。

それと、この跡地は京都外国語大学に極めて近い所にありますし、そういう面ではいろんな海外から看護をする人達に来てもらうという様な事が国の政策としてされていますので、そうしたときには言葉が非常に大きな壁になるので、外国語大学とそういう物が一緒にあれば非常に活用出来るのではないかと思っ、て、私立大学医学部と付属病院という意見を述べさせて頂きました。それから医学部ができますと医学会等の学会というのが京都で行われることになります。今、経済同友会でも国際会議場の増床を提唱し、予算が付きましたので、5000人規模の会合が出来るようになる訳ですが、途端にホテルが足りなくなります。そういった面からも、総合的に病院・大学・ホテルそういうものを組み合わせていけば、人の動きが活発になるじゃないかとそういう考えを持っています。以上です。

**土井座長** どうもありがとうございました。それでは、竹山委員お願いいたします。

**竹山委員** 竹山です。よろしくお願ひいたします。私、京都大学で建築を教えております。京都大学は吉田キャンパスに長らくありまして、今も工学部は吉田キャンパスですけれども、工学研究科、つまり大学院は桂に移転しつつあります。建築学科に関して言いますと、5年前大学院が桂に移りまして数年の内にはすべての工学系研究科が桂に移ります。この山ノ内浄水場は吉田と桂の間にありますので、車で行き来するときはずっとその前を通っています。地下鉄が延伸して、右京区役所や図書館ができて大変素晴らしいまちの中心になる可能性が高い場所だと思ひました。

それから先日見学させて頂きまして、疏水ができてからの歴史、京都が近代都市に脱皮してきたことの生き証人だなという感じを持ちました。

ところで、先日、私はエコミュージアムというような事をお話したので資料に書いてありますが、実は昨日までメディアアートとテクノロジーの学会で上海に行っておりました。上海は大変な建築のブームで市の中心地が、バブルの時の東京に近いくらいに大きく建て変わっています。建て変わっていますが、古い低層の住宅地も残っていて、この対比がアジア的で面白い。特に今回、浄水場のことがありましたので、上海でいくつも古い租界の跡地や製鉄所の跡地、製粉所の跡地、これを転用して新しい商業施設や文化施設にしているものを見てまいりました。成功しているものはいくつかあって、一番モダンな施設がフランス租界の跡地で新天地にあります。ここは本当に街の真ん中の大変良いところで、隣にデパートみたいなのところもあり、大変な賑わいを見せておりました。レンガ造りも倉庫群のような感じで、レストランやナイトクラブやいろんなものがあり、ハイブラウな感じでした。それから、商業施設として手作りのアートやギャラリーがあり、気さくに入れるようなレストランが並んでいます。

それから、昨日帰りの直前に寄った、英国租界の跡には、大変見事なレンガ造の建物があり、かつての東京の同潤会のアパートのように小ぶりでお洒落なギャラリーや店が

入っておりました。

ただ、どこよりも感動を受けましたのが、紅坊国際文化芸術区、これも製鉄所の跡地ですが、大変広い敷地の中にギャラリー、特に彫刻のギャラリーが大変広いものがあり、それからショップ、カフェ、美術館等に転用されていたのですが、古い建物を見事に活かして、いろんな機能が入っている文化ゾーンになっていました。感心したのが、巨大な製鉄所の大きな構造体の2階3階あたりに入れ子構造でスペースを造りまして、そこをオフィスに貸していました。これは、お洒落なデザインオフィスですとかそういったアクティブな人達が集まりそうな場所で、そういうオフィスを誘致して、賃料で基本的な採算を取っているようです。

その直ぐ下の1階は全部真っ白な彫刻のギャラリースペースで、それらの建物に囲まれた中庭のゾーン、大きな広場には屋外に彫刻が並んでいました。

ここには木曜日に行きましたが、決して行きやすい所ではないのですが、子供連れや外国人が大変多く、広いですから物凄く盛況という感じはないですが、大変多くの人達が集まって、お洒落なギャラリーやアートのブックショップ、それから vitra というスイスの有名な家具屋のショップがあつたり、イタリアのシステムキッチンのショップが出ていたり、もちろん芝生に面したカフェがあつてなかなか良いなと思いました。

エコミュージアムというのは、この間お話したことですけれども、基本的には地域の生活文化を守るという考え方で、エコミュゼというフランスでの概念で1960年代位に言われはじめた言葉です。日本で言うと、明治村なんかも一種のエコミュゼです。明治村の方が古いですし、本来は元あった場所で保存されるべきというのがエコミュゼの思想ですが。そのエコミュゼの考え方はイギリスで特に拡大されまして、古い製鉄所の跡地ですとか、鉱山の跡地ですとか、あるいは18世紀に世界最初のアイアンブリッジという鉄橋がイギリスで作られましたが、これを守り育てるといようなこと (The Iron Bridge Gorge Museum)。それから農村の風景を守る、あるいは北欧なんかでもそういうテーマでかつての生活文化を守り育てるテーマパークのようなもの、そういったものとしてエコミュージアムがあつて、そのエコミュージアムは厳密に言うと、地域文化と密接に繋がったかつての生活文化を含めてその場所の歴史を回想する場所です。

ドイツとフランスの境目の製鉄所跡地 (フォルクリンゲン製鉄所) が、最近転用され、ギャラリーになりました。

そこでは、アーティストが盛んに入り込んでいろんな物を造っていますし、それから製鉄所の巨大なプールをダイビングスクールに使ったり、色々なことが行われています。

先日エコミュージアムと申し上げたのですが、今回、もちろん水という過去の記憶につながれば良いのですが、必ずしもそれにこだわらなくても何かその場所に今ある施設の記憶を継承できるような場所になると良いのではないかと考えたわけです。

建築の設計をしていますといつも考えることは、今この場所でなければ出来ない事は何かという事です。隣にどんな建物があるのか、太陽はどちらにあるのか、川はどちら

に流れているのか、風はどのような風に吹くのか、山はどのような風に見えるのか。その場所でなければ出来ない事が今回の山ノ内浄水場でどのように可能なのか。場所の記憶がいかにか継承されれば良いか、と、見学をさせて頂いたときにつくづく感じました。今回上海ではそうした再生施設が大変アクティブでかつ若い人達で溢れているということを見て、改めてそういう施設になったら文化都市・京都の目玉として世界中から人々が集まる都市の名物になるだろうと思った次第です。これまでのようにただ、お寺とか古いものとかだけじゃなくて、きっと現代の生活遺産を新しく未来の文化遺産へと繋げた、まったく新しいタイプの文化施設になるのではないかと。

**土井座長** ありがとうございます。

ではまず、全体の資料を事務局から説明をしてもらい、皆さんからのご意見を頂きたいと思います。

議題1ですね「立地・誘導する施設あるいは機能分野」施設と機能分野について事務局から説明をお願いします。

**事務局** (資料の説明)

**土井座長** 今日は、前回の議論を受けて、第3回4回での施設の絞込みに向けて、跡地活用の施設あるいは機能分野について議論して行きたいと思います。

**木村委員** 大学と一括りに呼んでいますが、実は大学にも様々あって、海外の場合、例えばコミュニティカレッジやリサーチユニバーシティと呼び分けています。ですから、大学といってもどのような種類の大学、リサーチユニバーシティなのかそうでないものなのか、何かと組み合わせて考えるのか、議論をすすめるにあたって、そういった視点は持ったほうが良いと思います。

**土井座長** 1つの施設になるのか、中心になるものはどれか、というのを出来るだけ皆さんと議論させていただき、それに付随していくものがあれば考えていきたい。まず中心になるようなものについて議論してまいりたいと思います。

**竹山委員** 一つ教えて欲しいのですが、京都市では、高齢者の地下鉄等の運賃を無料にされていますか。

**事務局** 70歳以上の高齢者の方に、所得に応じ毎年3千円から1万5千円の負担金をいただいで、市バス、地下鉄全線に乗っていただける敬老乗車証を発行しております。なお、生活保護を受給されている方等については負担金をいただいでおりません。

また、これとは別に、障害をお持ちの方に、福祉乗車証を発行しており、こちらは負担金はいただいております。

**土井座長** それではこれから皆様のご発言・ご意見を賜っていきたいと思います。資料1をご覧ください、前回の発言について事務局で4つの分類に分けていただいております。本日は、最終的に機能分野を3つ程度までに絞りたい、施設まで絞ればありがたい。先ほど、木村委員が言われたように、大学といってもいろいろあり、文系と理系では学生数も違うし、同じ面積であれば施設の構成も違うでしょう。ですから、ここで大学についてはもう少し話を詰めて行きたいと思います。

それから医療福祉や若い人を引き付ける観光、文教施設についても検討していきたい、あるいはもうちょっと言い方を変えて創造機能のような機能のほうが良いかもしれません。

**竹山委員** 参考資料1に書かれてある「文化芸術とまちづくりを一体化させた取組を促進することにより、京都を魅力に満ち溢れた世界的な文化芸術として創生する」というのがたいへん重要な方向性です。

**土井座長** そういったことを、いくつか決めて行きたい。決めるのは非常に難しいかもしれないので、皆さんにもう少しご意見を出していただいて、その上で議論をしていきたいと思います。

**荒川委員** 前回、大学をひとつ誘致してくるというよりは、もっと複合的に沢山の大学、学生が集まれるような場所を作ったらどうかというのをご提案しました。その後もいろいろ考えておまして、京都にはメディアセンターとかアートセンターという様な機能が不足しているのではないかと考えました。と言いますのも、うちは芸大ですから展覧会等を年中やっております、特に卒業制作展を京都市美術館でやろうとした場合に、京都は芸大が全国の中でも多い地域だと思いますけれど、スペースの奪い合いみたいな状態になってしまいます。京都市美術館は、良い建物なんですけれども、老朽化していて照明や広さの面でかなり使いにくい状態になっています。ですから、単に美術館というよりはもう少しアクティブな形のアートセンターみたいなものが京都にあって現代アートや伝統工芸も含めたものを発信する場所になれば良いと思いました。

また、大学の医学部と病院、ホテルという組み合わせや、医療とアートとか、今まではミスマッチに感じていたものを組み合わせることによって、非常に魅力的なアクションが起きている例も沢山ありますので、そういう組み合わせも面白いのかなという風に思います。

ということで、4つの機能ということで出していただいておりますけれども、これをどれ

か 1 個に絞り込むというのではなく、何かコンプレックスさせることで今までにないような面白い場所と現象が起きてくるのではないかと思いました。

**木村委員** 1 点目は質問なのですが、京都の場合、東のエリアに大学は割合多いですが、西のエリアについては京都市の都市計画の中で、どういう機能が不足しているという問題意識を持っているのかということがもしあれば教えていただきたい。2 点目は、5 つの大学から問い合わせがあったということですが、これは具体性のある提案があるのかどうかを教えてください。

あと、お話を聴いていて思い出したのが東京の聖路加国際病院で、ビル 2 棟にホテルとオフィスと病院がうまくリンケージしていてあれも凄く面白い仕組みだなという風に思います。

**土井座長** 京都市に質問が出ましたので、問い合わせの件とこのエリアに立地を望むものや西のエリアをどのような形にして行きたいかについて正式な見解でなくても、今お考えのことをお答えください。

**事務局** 土地利用の面から言いますと、区画整理がなかなか進んでいないこともあり、都市機能として道路が足りないという問題があります。ただ山ノ内では言いますと、葛野大路を下がって行けば、外国語大学等がありますので、機能として何が欲しいかと言いますと、1 つは大学系です。この地域には島津製作所もあれば三菱自動車もあり大日本印刷もあるので、ある意味ものづくり系に寄与するような機能、または先ほどお話にありました様な病院なども都市にとっては必要ではないかとの思いはございます。

都市計画の関係で言いますと、この委員会の中でご議論いただいたものを我々が制度にしていくということですから、京都市として、こうしたとかいうような事はなかなか申しあげ難いと思っております。

**事務局** 5 つの大学からの問い合わせの状況につきましては、あくまでも問い合わせレベルでございまして、用地の活用の方向性や提供時期等の問い合わせにとどまっておりますので、具体的な提案ではございません。

**山下委員** 前回 3 つの機能を考えていると申し上げました。大学はその 1 つです。先ほどからお話を聞いていますと、医療関係も含めた総合大学という方向も良いのではないかと感じました。山ノ内周辺には島津製作所あり、また市内には日本企業のリーダー的な、先進的な技術を持たれた企業が沢山ありますのでそういった企業と一緒にやっつけける大学がよいかと思っています。

あと、竹山先生の上海の話ですが、私も上海には行きます、行くたびに 1 年も経たな

うちに大きく変わっていきます，赤レンガ等の懐かしいものが残され，現代風にアレンジされ利用されているということをお聞きいたしますと，前回は申し上げましたが今の施設の残せる部分については残していく，そうした意識も大事ではないかと思っています。

**北尾委員** 荒川委員の言われたように，複合的なものが良いと思います。

例えば病院，行ったら病気になるような病院では困るので，行ったら治るような，病は気からということもありますので，明るく心の和む空間，アートがあり，綺麗なホテルがあり，それから若者がいるというような活気ある空間になると良いと思います。

そういう面では，京都は 50 の大学があり，常に 15 万人の学生がいて，さらにアジアから留学生を呼ぶという。京大と同志社と立命が国から国際化拠点として指定を受けていますので今後留学生が増えていきますし，そういったときに京都外大と隣接してるといのもとても良い。今回，京都経済同友会で，京都の大学をどういう形で活用したらいいのかということを検討する委員会を立ち上げました。そこで今度，フランスの国際大学都市というものを見学に行くことになっています。国際大学都市というのは各国が自国のパビリオンというか寮を自前で作り，そこに自国の留学生を優先的に留学してもらって，広く国を知ってもらおうという施設で，日本の日本館というのがあって政府機関，官公庁もかかわっています。日本も ODA でたくさんの開発費用をそういうところに出しているわけですが，そういうお金を例えばベトナム館だとかシンガポール館だとかインドネシア館などをその国と協力して，山ノ内の一角に作るということも 1 つの案かと思っています。そういう形で留学生あるいはそれに見合った施設ということの中に，医療関係のもの，あるいは芸術関係のものなど様々な施設を整備すれば良いと思いますが，ただ，先ほど，私立大学の医学部をとということをおし上げましたけれども，そう簡単に立地をしてくれるわけではありませんので，そういう面では市民ぐるみでそういうものが必要だということをおし信していく必要があります。国公立大学では国や地方自治体から新たなお金がなかなか出てこない。私学であれば，ある面ではまだお金を持っている 1 つの法人ではありますので，その資金をうまく利用し，私学を誘致することにより国公立大学とはなかなか難しい産学交流というのがもっと進むのではないかと思います。また，京都は付加価値の高いもの作りを行ってきました。そういった面で，分析機器や医療機器等の先進的なものを作ることに寄与できることも大切かと思っています。ちょうど，あの地域にはそういった会社が沢山ありますので，医療関係の大学が出来ると活発に色々な研究が進むのではないかと思います。そういう場所になれば海外からも有名な学者等，色々な人々が沢山集まる可能性も出てきます，そういった時に日本の心や芸術等を紹介する機会ができる施設があっても良いと思います。荒川委員が言われたように様々なものが複合的にあり，その中にいろんな人が集まれるというような地域にしていくのが良いのではないかと思います。そういった面で，核になる施設として，今比較的

資金力があると思われる私立大学を誘致することも 1 つの考え方ではないかと思っております。

**竹山委員** 先ほど、この参考資料 1 の文教分野の政策目標をそのまま、まさにこうだなどと思って読み上げたのですが、実はその下の業務分野「京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠の技、企業の持つ優れた技術力、知の集積拠点である大学など、これまで築き上げてきた「京都力」を活かした「ものづくり」により、京都ならではの産業振興を進める」という記述も重要です。産業振興まで行くかどうかは難しいかもしれませんが、細やかな職人技も含めた、京都の街に根ざし、京都のこれからを担っていく人達が働いてもらえる場所というのが併設されると良いですね。文教分野あるいは芸術分野と言っても、文教・芸術は直接にお金を生むものではないです。しかし、そこにオフィスなり、物作りの研究所なりがあると恒常的な収入になるのではないのでしょうか。と言いますのも、私、都市計画マスタープランの作成委員させて頂いておまして、その時も申し上げたのですが、京都大学で大変優秀な学生たちを教えておりますが、その学生のほとんど全てが東京や大阪に出て行きます。京都にはほとんど残りません。何故か、働く場所が無いのです。もちろん島津製作所や三菱自動車とかそういったジャンルのところで京都ということもあるかもしれませんが、基本的には京都で働く場所がないというのが学生たちを外へ向かわせています。特に私が教えている建築の分野では大企業を志望する学生というのはそれほど多くは無いものですから、出来れば京都でそのまま働きたいという学生も多いです。その初心を貫徹して京都で事務所をやっている教え子たちも何人もおります。ただ、大変なかなか家賃も高く、なかなか仕事の環境もいろんな意味で難しく、ビジネスチャンスがやはり東京にあることが、流出していく理由だと思います。これまた都市計画マスタープランの時に申しあげたことですが、京都という名前がつく大学に全国から学生がやってきます。その時に京都ファンになる学生がほとんどです。私もそうでした。しかし、社会に出るときに京都を出ざるを得ない。心は京都にあるけれど、外に出ざるを得ない。金を稼げないから、働く場所が無いから。そういった学生が、ベンチャーでも良いですから新しいアイデアを京都のもの作りと絡めて作っていく。そして、芸術の分野ではそういう人達が大変多いと思いますが、京都に根ざして京都をこれから作っていく、支えていく、文化都市京都を作っていく。そういった人達の為のベンチャーのオフィスが置ける場所ですか、そういった物を発表できる場所とか。そういったことと様々なプログラムを重ねてこの跡地利用を考えていくのも、重要なことでしょう。先ほど申し上げました過去の記憶を残していく方法というのは、ちょっとずつ色々な事を変えていくというやり方もあると思います。財力ある誘致主体が無い場合は、お金の問題もあります。ちょっとずつ変えていった例が、先ほどの上海でのいくつかの例です。上海でも大きな資本が投下される場合は、全部きれいにして全く新しい超高層ビルが建ちます。それはそれで新しい活力にはなると思いますけれども、

今回のように、大変深い穴が沢山掘られている浄水場跡地であるという敷地の条件があり、もしそれをうまく活用して、あるいは更にそこに新しい建築物や空間を絡めて、技術、芸術、文化を基本として、さらにビジネスや医療などと結び付けられるのであれば、その方が投下資本としては、少なくても済む。長い時間を込めて、徐々に軌道修正しながらのほうが、じっくりと未来を見据えた京都のまちを作り上げていけるのではないかというような思いも半分はあるのです。と申しますのも、当然何十年という先を見定めて誘致をするのでしようが、昨今の経済状況だといつ何が起こるか分からないからです。今はやはり、ある程度短い期間での成果を視野に収めつつ、ちょっとずつ、5年ずつとか成果を見ながら軌道修正していくのも手かなとは思いますが。私の設計しました中に、たいへん成功した対照的な二つのホテル事例がありまして、1つは箱根の「強羅花壇」、これは世界中からお客さんが来ます。もう1つは、山代温泉の「べにや無何有」。どちらも大変客単価の高い旅館ですが「強羅花壇」は一気に資本投下して、大改築といいますか、ほとんど新築して成功した例です。1989年に出来て、21年経っても客足は衰えません。少しずつ改装はしますが、基本的なコンセプトをきちんと立てれば長持ちするという例の1つです。ところが、「べにや無何有」は、最初は新築ということで計画をしましたら予算が足りないということで、4回に分けてすこしずつ改装しました。1995年からほぼ3年おきに改装しますと、ちょうど社会の激変にうまく対応して阪神の震災後の客層の変化もうまく乗り切り、その後様々な経済状況の変化も乗り切り大変うまく軌道修正して、今、これまた予約がほとんど取れない旅館になっております。基本的な条件としては、大きな投資主体が動く場合は、これは大規模で長期視野で一気に作ると思いますが、そうでない場合は、細やかな計画をして少しずつ先に進んでいくというやり方もあるのではないかなと思っています。

**土井座長** ありがとうございます。私も皆さんのお話を聞きながら思うところを少し述べたいと思います。立地する機能というものに入る前に、少し皆さんのお話を私なりに考えました、1つはキーワード的なものを整理しておいて、それに合わせる機能というものを考えたのですが、前回もお話したのですが、山ノ内は非常にアクセスがよく京都駅から18分で来られる場所です。京都の中で施設を考えるのも大切ですが、さらに広域的に人々を集める可能性というのは凄く高い。ですから、今まで京都に足りなかったものを広域的に集める施設にしてはどうかと感じています。また、これからの時代のことを考えていくと、時代は何を求めているかということを見通しておく必要があると思います。

医学部の話が出てきましたが、医療も含めた健康に対する人々の思いは強いものがありますし、国の高齢福祉予算が大変高額であることからいっても、健康に対するお金は非常に沢山使ってきているといえます。ところが、最後まで健康で幸せな人生を生きる

れるかといったら、なんとなくですが、そのように感じない。出来るだけ健康な余命を人々が保つためには何をすべきかと言うことを考えていくべきなのではないかと思っています。京都大学の医学部には医学科と保健学科の2つの学科があります。山ノ内に本当に医学的なものがあるのか、それとも予防医学的な健康を支えるような仕組みを考えるほうが良いのかというのをずっと考えていたのですが、やはりこの場所では予防医学的なもののほうが良いのではないかと思います。予防医学的なものであれば、例えば工学部が技術を提供するとか、アメニティとしてアートをうまく組み合わせるとか横の広がりが出てくると思います。ですからコアに健康、あるいは予防医学的なものを入れ、それを中心にアートであるとか、その他の複合的な機能を作っていくというようなことがあると、新しい、もしかしたら関西ではあまり無いような物が出来る可能性があるのではないのでしょうか。ですから、健康とアートをうまく組み合わせた予防医学的なものという考え方もあるのではないかと思います。

もう1つ、キーワードとして、人々が話し合える場所というものがとても大事だと思います。私たちの人生の中で必要なものは何かについて、交通計画でずっと考えているのですが、その中でも、人々は話し合うために行動しているという事例が沢山あります。昔は話し合う機会として井戸端会議がありましたが、現在では、そういった場所がなかなかありません。そういった意味では人々が自由に集まって語り合える場所を作ってあげる必要があるのではないかと思います。山ノ内は京都駅から地下鉄で18分で来られますし、都心にも近く人々が集まりやすい場所にあります。ここに人々が集まって話し合える空間、例えば、アートやおいしい食事等の付随的な機能を複合的に持たせて、人々に来てもらう、語らいに行くとはなかなか言いにくいので、アートを見に行くとか、おいしいものを食べに行くとか、人々に来てもらうような、そういった場所にできたら良いと感じています。また先ほど竹山委員が言われたような、メディアアートの様なもので、敷居が高いものと低いものが複合し、老若男女問わずどんどん来てもらえる施設になると良いと思いました。

ワクワクできる、人に夢を与えるような施設になるという夢のある部分を、委員会からの答申に書き込んでいくことによって、実際に施設を作られる方に、人々に夢を与える施設を作るんだという意識を持ってもらえるという良いことだな、というのが皆さんのお話を聞いて感じたことです

更にもう少しご議論を、荒川委員は最初にお答えいただきましたが、お話を聞かれて思われたことがあれば、是非お願いします。

**荒川委員** 以前学生の卒業制作を指導しておりました時に、佐賀の嬉野出身の学生が、出身地の温泉がひなびてしまって人が集まらない、それをなんとかできる計画を作りたいということを書いてきました。その学生と相談して、まさに先生が言われたように健康をテーマにしたまちづくりをしてはどうか、今、中国の富裕層が日本に健康診断を受け

にいられていますので、人間ドックのような物と、それに温泉、おいしい食事、観光等と組み合わせることができればそういった富裕層を集められ、とても良いなと話をしました。

京都であれば、人間ドックを受けに行くということをして日本中から、それこそ健康な人々が集まってきて医療チェックを受けて、おいしい京野菜のお料理を食べたり、温泉も掘れば出るかもしれませんし、観光も含めて精神的なバランスを取り戻して帰ってもらう、そういったプログラムができるのではないかと、そういうもののベースになる場所を作ることでもできるのではないかと思います。

**木村委員** 新たにオフィスを作るということですが、京都のオフィスの需要と供給バランスを鑑みると、入居需要がそう伸びないように思われます。

大阪等でもプロジェクトが動いていますが、新たなオフィスができると既存のオフィスが空くというように、国内で取り合っているような状況です。不動産の市場を伸ばすためには、日本の企業が海外に進出されているように、逆に海外、特に中国の企業を京都へ誘致することができないかというような仕掛けも必要かと思います。

話が変わりますけれども、先ほどから、今注目を浴びている「未病」というキーワードが出ていますが、海外のスタンフォード大学では総事業費 3500 億円の 3 分の 1 を病院が稼ぎ出していますので、やはり医学部や病院は大変経済波及効果が高い施設のひとつであることは間違いのないと思います。

**竹山委員** 木村委員の言われる大阪のプロジェクトは超高層ビルのオフィスを想定されていると思いますが、上海でも、勿論超高層ビルのオフィスは沢山出来てきていますが、先ほどお話した製鉄所の跡地には 1 階にギャラリーがあり、その上の 2 階 3 階に入れ子構造で小さなスペースがあり、そこをオフィスとして使っています。

同様に、京都ならではの 2 層 3 層くらいでの建物で、1 階はパブリックスペース、2 階 3 階にいくつかの小さなオフィスにもなるようなスペースを作って、そこでベンチャー的に活動してもらえば、建物もローコストで出来ますし、効率よく使うことが出来ます。そこに、将来、京都で、すごいお金を稼ぎ出すような企業を生み出すような若い人達に入ってもらおうという程度のもので良いと思っています。

これは、誘致候補施設の面ではなくて、政策目標の方ですね。物づくりにより京都ならではの街の集積拠点をというイメージです。

**土井座長** 島津製作所は京都大学の医療機器とか実験機器を作り先端的な技術を身に付けて大きくなって行きました。

同じように、今回ここで出来る施設に対して産業クラスターが出来ていくような、あるいは今までのものの枠を更に広めていくようなものであれば、自ずと大きく動いてい

けるかもしれません。

**竹山委員** 既に木村委員がやられていることですが、やはり京都は様々な若い才能のある人達、様々なジャンルの人達が集まっていますから、彼らが横断して活動できるような、まず出発点として起業の拠点になるような場所であり、しかも多くの人から外からやって来るような施設が出来ると良いなと思います。

**荒川委員** 浄水場の跡地ですから、がらんどうの空間の中に少しお金をかけてフロアを作っただけで、竹山委員の言われるような、小さなオフィスのようなものがそのまま作れますし、しかもそれが御池通に面して両側にありますので、この地区はこういう地区だよということを皆さんに知ってもらうのに非常に良い広告塔になるのではないかと思います。夜でも明るく若い人達が一生涯懸命働いたり、研究したりしているような姿が通りから見えていると、なんか凄く街が活気に溢れたような印象が出てきますし、山下委員の言われた、人通りを増やして欲しいということにもつながるのではないかと思います。

**竹山委員** 既存の建物がそのまま使えるかどうかは、いろいろと難しいところがありますが、地下の巨大なプールは面白い空間です。4 m以上の深さがあり、100 mくらいの長さがある。先日初めて浄水場の中を見学して、あの空間の水が全部抜かれたらどんな空間が出来るのかとゾクゾクしました。プールを撤去するのに多額の費用が掛るとすれば、このゾクゾクする空間をうまく利用して、その中にガラスの箱を浮かべれば、医療施設でもアートセンターでもオフィスでも、何でも作ることができます。さらに、そこに向かって降りていく体験はすばらしいものでしょうし、世界中から人を集めることが出来るのではないかと思います。

外国人の友人たちも日本に来ると、必ず少しは京都に来ます。京都での出発点は、社寺仏閣等の古い遺産です。でも、若い人達には何となく飽き足りない、京都で何かアクティブなものが無いかと立ち止まるわけです。その時、京都駅からすぐの場所に、全く新しいクリエイティブな施設があれば、世界中から若い人達が集まります。

**土井座長** 右京には世界文化遺産が4つあります。1つあるだけでも凄いことですから、その右京区のほぼ真ん中くらいの位置に山ノ内浄水場があるので、今言われたことは両方可能ですね。

**竹山委員** 実は、医療デザイン研究会を関西学院大学や有識者と一緒に立ち上げました。医療の中で患者の視線に立った建物が少なく、快適な医療空間が無いのでそれを考える研究会です。アートとかデザインが絡んだ空間が少ないので、そういったアーティスト

やデザイナーと一緒に計画された空間であればおそらく大変多くの人達がここに来たいという気持ちになります。年老いたとき時にどういう空間に居たいかといいますと、まず健康的には安心なサポートがあり、音楽とアートと本に囲まれた空間で過ごしたいというのが私の感覚なんです、これは多くの人達にも当てはまると思います。アートギャラリー等には若い人達が沢山来ています。恐らくこの山ノ内でアートの、あるいは文化芸術的な施設を作っていけば、未来に価値が生み出される新しいアートの創造になるだろうと思います。

そうなる世界から、若い人達が集まり、活気が出てくる。私は若い活気というのは、健康にプラスになると思いますから、結果として全世代のための施設になっていくのではないかと感じます。

今の施設はなかなか面白い施設ですが、仮にそれを利用するとしても、今の施設をそのまま保存すれば何か面白いことが出来ると言う事ではなく、今の施設が持つポテンシャルをうまく利用し、不備は大きく改修して施設を作っていく必要があると思います

**山下委員** 竹山委員が言われたように、浄水場は地下に深く掘りこんだ施設です。あの施設を撤去するとなると大量の廃棄物が出てきますし、そこにまた同じようなコンクリートを持ってくることになると思います。私は前回、今の施設を活用して地下に居酒屋みたいなものを作ってもいいのではないかと申し上げたわけですが、今ある施設を単純に壊すのではなく、有効に活用していく方向性が必要なのではないかというのが私の思いです。

それから、医療関係の話が出ていますけれども、確かに病気になったときに治療できる最先端の医療施設も必要ですが、それ以前に病気にならないための予防医学がこれからはもっと前面に出てくるべきですし、その需要をターゲットにするべきではないかと思っています。

そこで、特に北尾委員にお聞きしたいのですが、今京都でそういったことをやろうという気持ちのある企業はあるのでしょうか。

**北尾委員** 京都は日本の中でも特別だと思います。京都を一地方都市と見る中央官僚も多いことは事実ですが、間違った認識です。京都は特別な都市だという認識を国に持ってもらう必要があるという思いで働きかけています。京都は外国から見ても魅力的で、例えば、学会も京都で開かれるなら参加しようという動機にもなりますし、京都の企業と一緒に仕事をしたいという需要も有る、そういった気持ちを喚起できる都市であることはまちがいありません。ですからやはり日本の中で京都を特別な都市として位置づけ、国益のために京都をどう活かすのかという事をもう一度考えてもらわないといけないと思っています。

京都の企業は、京都でがんばっていこうという思いが強く本社を東京に移すところは

ありません、そんな気持ちになる都市は京都だけだと思います。しかも、大学が沢山あり、ベンチャー企業が生まれる可能性も大いにある。また、木村委員のところで取り組まれているように、企業にとって京都は非常に産学連携しやすいまちですから、そういう部分をもっと広げていって、連携を深めていける可能性があるのではないかと思います。

ただ、残念ながら、大学と市民との間に壁があるように感じます。昔、京都はまちぐるみで学生を学生さんと呼んで非常に大事にしていた、その心が残っている間に、大学との壁を取り除き市民がいつでも出入り出来る、例えば学内の緑を市民の憩いの空間とするなどですが、そういった活動を通じて市民と大学とか一体になって京都を活性化させていく過程で、京都独特の企業が生まれるのだと思います。過去には、京セラであり村田製作所であり任天堂でありワコールであり、京都の地場の産業が基か、大学の先生方の支援の下に起業、発展した会社ばかりです。ですから企業はもっと京都の為に投資をすべきだと思っています。

山ノ内浄水場跡地については、少子高齢化の中で、安全安心なまちづくりの中核になれば良いと思いますし、健康をキーワードにして京野菜を育てる施設を作り、その京野菜を使ったイタリアンや京懐石を手ごろな価格で食べられる、また京料理を自分で料理する体験が出来るような施設になっても良いと思っています。

**竹山委員** 議論のテーマが医療とか芸術とかに行っていたので言いそびれましたが、ここは水を扱っている場所ですから、浄水場だったという水の記憶は永遠に残ると思います。疏水で結ばれた「蹴上」と一体化してエコミュージアムと考えてもいい。地下鉄でも東西線で一本です。しかも京都は水の街です。水がキーワードです。酒は水で出来ています。昔、日本中の酒が飲めるという酒場に行って感動したことがあります。世界中のありとあらゆる酒を集め、あの水を抜いた後の地下の空間に長い長いカウンターを作って酒瓶をずっと並べた酒場があれば、どうでしょう。私は絶対に行きます。そんな風なアイデアもありかなと思いました。

**土井座長** お酒は、お酒が好きな人だけが飲むのではなくて、お酒を口実に人々が話をする場になりますから、自然に人々が集まって来る、そして会話をします。それは、人生最大の楽しみの1つですね。

私も皆さんの話を伺っていて、この場所に何かを誘致する時も、商品価値が高いことをアピールすることが必要で、今お話があった水の記憶もそうですが、ここの場所の特徴というべきユニークな点がいくつか出てきています。その1つに京都駅から非常に近いというロケーションのことがあります。また、予防医学の面から言うと緑、自然と触れ合えることとても大事なことです。その意味では、山ノ内は敷地内だけでなく、地下鉄東西線や嵐電のネットワークを使い、嵐山、二条城、鴨川、岡崎、東山、果ては琵琶

湖まで行けて、緑と触れ合える、とても価値の高い場所です。ですからこの様なこの土地が持っている力、機能をうまく説明し、これだけ価値が高いところだということをアピールしたうえで、誘致をする必要があると思っています。

委員の皆様のご専門の立場で、文教と医療、アート合わさったものという議論がありますけれども、それをもう少し論理強化する、あるいはこれからの見通しなどをお持ちであればお話いただきたい。

**北尾委員** 京大での、森田先生の「運動と健康」という授業が学生に大変人気が高いことから分るように、予防医学はこれから注目を浴びていく分野だと思います。そういった運動と健康や緑の空間等を複合的に組み合わせることは大変魅力の高いものだと思います。

ただ、ホテルは、京都にとって無くてはならない物ですから、例えば、ホテルを立地するとすれば、市として高さの規制を緩和する可能性があるのか、市の見解を教えてもらいたい。

**事務局** 門川市長から諮問させていただいた中に、この地域にふさわしい用途地域、建ぺい率、容積率、高さ規制等がございます。ですから、全く緩和できないと申し上げるつもりはございません。ただ、都市計画の制限を変更する場合、都市計画審議会でも、変更する理由、経過等を十分に御説明しなければなりません。このため、周囲の制限との調和等の事柄やこの場所に立地する機能の公共性なども踏まえた合理的な理由が必要であると考えています。例えば高さ 100m でも構わないということなどはできません。

都市計画局としては、この委員会でも都市計画の規制についても御議論いただき、可能な限り対応させていただきたいと考えております。

**土井座長** 仮に高さを緩和したとしても、この場所は現在工業地域で容積率が200%ですから、高さを活かすきれないことも考えられます。ですからここにふさわしい機能、用途に応じた、高さ、容積率、建ぺい率を考えていくことが重要だと思います。

**北尾委員** 数値的な規制とは別に、建物の風格も問題になると思います。今、ショッピングモール等の集客施設が沢山できていますけれども、もちろん経済性を考えると仕方がないことかもしれませんが、建物に品が無い場合が多いと感じています。

そのような建物ではなく、後世に残るような風格のある建物が立地すべきです。私が大学をと申し上げているのは、大学であれば風格のある建物を建ててくれることを大いに期待できるからということも理由の一つです。

風格のある建物と申し上げましたが、レトロ風であったり、赤レンガ調であったり、もちろん京都ですから町家的なものも重要ですが、それだけではなくて、新しいものも

融合しておしゃれなものが、コンペ等をして若い人達の感性も取り入れながら出来ると良いと思います。

**土井座長** 今までの議論を少しまとめさせていただきたいと思います。

資料 1 をご覧ください。前回の意見を基に作っていただいた資料ですが、機能に応じて施設を文教・研究機能，医療・都市機能，観光機能・その他に分類されています。大学という意見が多いですが，今日，主に議論に出たのは健康関連の大学を中心に，アート系施設，宿泊施設等の人々が集まれる複合的な施設でした。

次回の委員会に向けて，どの施設がどの程度，地下鉄増客や経済的に効果があるかを調べてもらうことにしたいと思いますが，比較検討できる形で調べないと意味が薄くなりますので，大学とアート系施設，宿泊施設，健康施設を調べる。大学は普通の文系大学と健康系大学といった様な比較が出来ればよいでしょうか。

他に調べる視点等についてご意見ありませんでしょうか。

**竹山委員** どのような事業にするかは，当初にどのくらいのコストがかけられるかによって，実現可能性が変わります。大再開発，既存施設を全部撤去して，更地に巨大な建物を建てるのと，今の施設を活用して必要などころを変えていくということだけでも出発点が違いますから，今，機能を絞った段階で実現可能性を計ることは難しいと思います。

**土井座長** ここで言う試算モデルは，竹山委員の言われた費用面の話ではなく，どの程度の効果，大学なら学生何人，病院なら何人といった，オーダーを見るという話だと思うのですが，その辺りは事務局に説明をお願いします。

**事務局** まず，参考資料 1 にお示ししているものが，機能別のメリット，デメリットを庁内関係部局でまとめたものです。しかしこれは，データに裏打ちされたものではありません。庁内関係部局での会議で議論して，関係する政策との整合性であるとか，今後の京都市の向かう方向，それから最重要課題である地下鉄の増客，それに伴う経済への波及効果，そういうものを書かせて頂いております。

それを補うため，精密なモデルを想定するのは難しいですが，敷地に対して想定出来るモデルを作成し，効果を試算したデータをお示しすることにより，分野ごとの効果，メリット，デメリットをデータに基づいて比較検討ができる一つのツールとして，立地を誘導すべき施設の絞込みに役立てていただきたいと思いますと考えております

また，民間活力の利用を原則としておりますので，当然，需要が無ければ実現性というのは乏しいものでございますから，シンクタンク等への需要動向調査や，実際の需要調査等を実施することを考えております。

**土井座長** この参考資料 1 を，定性的な記述から定量的な記述にしたものということですか

**事務局** そうでございます。モデルを作成しなければ，例えば仮に税金等を試算するにしろ，地下鉄の乗降客を試算するにしろ，比較はし難いだろうと考えております。

**土井座長** 例えば，46000 m<sup>2</sup>のうち20000 m<sup>2</sup>に大学を立地させるとして，面積や，容積に応じた床面積に対して，学生や職員が何人くらい来るだろうということを想定していくということですね。

**事務局** そうでございます。ただし，あくまでもモデルですので，複合施設のような複雑な要素をモデルとして作成できるのかについては検討が必要ではないかと思えます。

**土井座長** 複合が難しければ個別に効果を算出するということですね。

**事務局** 進め方については検討したいと思えます。

**土井座長** この調査で出てくる数字というのは，事業主体の意欲は入ってきませんね。むしろ事業主体の意欲の方が重要で，そういった人達の意欲を喚起していける答申を出すのが一番大事だと思います。

ですから私たちが今議論している内容が京都の未来には取って大事だと市民の方々に共感してもらえるものであればそれはそれで良いと思えます。でも市役所としては，一定根拠というものも積み上げていかないといけないということですね。

**竹山委員** 市民への説明責任が果たせないということでしょうが，そこで出てきた数字はそれほど信用できるものではないと思えますが，京都の未来に何が必要なのかということをも皆で考える機運ができるのかもしれないですね。

ともあれ，ここは右京区の施設ですが，全京都のみならず，全日本，全世界の施設になれば良いと思っています

**土井座長** 私たちが議論した，この熱をできるだけ反映，吸収した答申ができたなら良い。何かの施設，例えば大学というだけでなく，定性的な言い方が良いかは分かりませんが，夢のある施設や世界と勝負できる施設といった，思いを実現していただけるような答申をまとめられたら良いと思っております。

**竹山委員** もし、どこかの私学の雄がここで責任をもって医学部をやると行ってくれるなら素晴らしいことだと思いますが、単一施設にしてその施設にここを全部任せることは危険も大きい。今の時代は単一企業・単一施設をドンと引き入れるというのは難しいかもしれない。だから複合施設にする、いくつかの施設を組合わせて、総合的に市民の健康の向上、地下鉄の増客、生活の質の向上といったものを目指す、それがそれほど思った効果を上げない時には、より意欲のあるところを探してくる。とにかく京都に長く根ざしてやる気のあるところを発見していくプロセスが大切なのだと思います。

**土井座長** 時間も迫って参りました。次回は先ほど事務局のほうから説明があったように、モデルを作って効果を調べてもらいます。今日、簡単なまとめをしましたがそれでもそれについてもう少しご意見いただきたいと思います。

**荒川委員** 具体的にこれを作れば良いということの前に、これが出来ることによって京都に住んでいる人達、それからここを訪れる人達の生活の質というのを高められるものを作るということが大事ではないかと感じています。それはもちろん医療という直接的に健康ということに関わるものや、アートのように生活に潤いを与えてくれるものもあります。そういった、人が人らしく生きていくために大切にすべきものは何かということを考えられるような場になると良いなと思いました、とても抽象的で申し訳ないですけども。

**北尾委員** 京都はもともと大変複合的な都市だと思います。同じ古都である奈良と比べても、産業も文化も色々なものが渾然一体となって今の京都は出来ています。そういった状態が凝縮したような形になれば良いとそう思っています。そのコンセプトに少子高齢化の中で健康というものを中心に置くというのがとても良いのではないかなと思っております。

**木村委員** 建物に何かワクワクする遊びの部分が少なくなっていると、最近感じています。海外の研究所なんかですとシースルーのエレベーターの上に人形が乗っていたりします、そういうなんとなく楽しい、ここでいうと通りに面したレトロな部分を残すとかそういった部分も必要ではないかと思っています。

**山下委員** この解体費用は相当な金額になると思いますが、どのくらいになるのかが少し気になります。

京都は冷泉であれば結構沢山出ています。ですからここでも掘れば出てくるのではないかと思います。そういったプラス要素を事業者選定に向けて提示していかなければいけないのではないのでしょうか。

あと、土地が御池通を挟んで南北に分れていますので、関連して一体的なことが出来れば一番良いのですが、どちらか片方からやっていくのも1つの方法ではないかとおもいます。特に前回申し上げましたが、今は土地を売る時代ではありません、ですから、ある部分では京都市が事業主体となってもらうことも一つの案だと思います。

**竹山委員** 場所の記憶をきちんと継承していくような施設になって欲しいということ、世界中から人々が集まる施設になって欲しいということ、それから京都で起業する人達をサポート出来るような施設になって欲しいということ、その3点です。

**土井座長** 皆さんご意見ありがとうございます。前回から比べると非常に絞ることができたのではないかと思います。

今日の議論で出てきた大学は健康、予防医学的なものでしたが、それだけではなく、議論に出てきた他の施設、アートやホテルなどを漏れなく、経済波及効果等の調査をしていただいて、総合的にどうしていくかといった議論を、出していただいた数字を基に感覚的な話を現実に基づいた話に詰めて行きながら、次回できればと思います。

以上、簡単なまとめとして、これからの進め方を提案させていただきましたが、委員の皆様いかがでしょうか。ありがとうございます。

それから事務局にお願いですが、次回までに、浄水場の撤去にかかる費用について判れば教えていただきたいと思います。

では、議題1は以上とさせていただきます。

次に議題2、その他ですが、事務局からありますか。

**事務局** 特に、議論の中で新たに議論するものがあればということで、その他にさせて頂いております。

確認でございますが試算モデルの具体的なものは、土井座長と相談させて頂くということでもよろしいでしょうか。

**土井座長** わかりました。

それでは、以上で第2回の検討委員会を終了させていただきます。

皆さん活発なご議論ありがとうございました。何か目の前が晴れてきた気がしました。お疲れ様でした。

了